

保護者の皆さん

令和3年10月21日

県立市ヶ尾高等学校
校長 佐藤 弘之

令和3年度第1回「生徒による授業評価」集計結果について

令和3年9月、「生徒による授業評価」を実施しましたので、結果を報告いたします。

1 授業評価の概要と結果

(1) 評価項目

大項目	設問	小項目
ついでに授業の在り方に	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとめ）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

(2) 評価

(1) の項目について次の4段階で評価を行った。

4 かなり当てはまる 3 ほぼ当てはまる

2 あまり当てはまらない 1 ほとんど当てはまらない

(3) 集計と処理

教科ごとに集計を行い、小項目の評価が「4 かなり当てはまる」の割合を算出した。教科ごとに「4 かなり当てはまる」の割合が最も高い項目には塗りつぶし太字、最も低い項目には下線斜字で明示した。

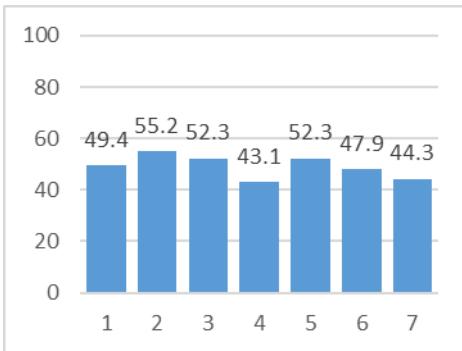
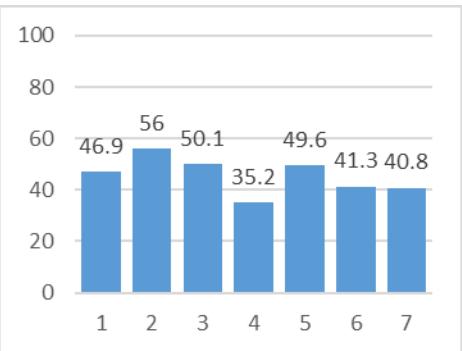
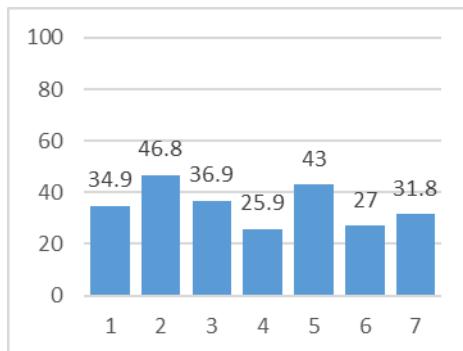
(4) 各教科の小項目の評価「4 かなり当てはまる」の割合

設問	国語	地歴・公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	平均
1	45.3%	42.2%	36.5%	30.0%	41.6%	47.8%	30.9%	30.8%	<u>27.2%</u>	36.9%
2	52.3%	33.8%	39.4%	25.4%	43.4%	46.1%	32.5%	25.1%	27.9%	36.2%
3	47.4%	34.0%	40.8%	27.0%	44.4%	44.4%	32.1%	26.0%	31.2%	36.4%
4	37.8%	38.8%	41.2%	28.6%	42.7%	50.1%	33.0%	37.0%	49.3%	39.8%
5	47.9%	34.2%	<u>35.0%</u>	<u>24.4%</u>	<u>39.7%</u>	44.9%	<u>29.1%</u>	<u>24.4%</u>	29.8%	<u>34.4%</u>
6	41.0%	36.6%	36.5%	27.8%	40.6%	<u>42.3%</u>	29.7%	27.4%	32.4%	34.9%
7	42.1%	46.5%	40.3%	32.1%	39.8%	45.0%	33.8%	32.0%	37.3%	38.8%

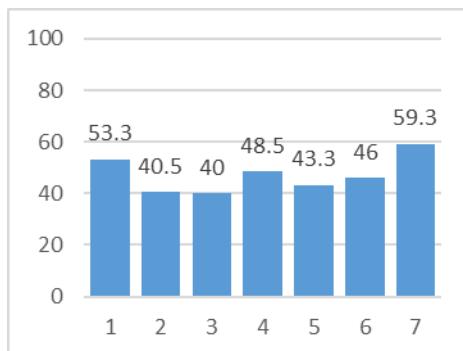
2 各教科の分析と改善の手立て

分析		改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> 設問2の割合が最も高い52.3%となっている。授業の中に、他者の考え方を知り、自らの考え方の深化に生かす活動が設定できている結果だと考える。 設問4が37.8%と低くなっている。毎時間の授業で、ねらいの提示や授業の振り返りの時間が不足しており、知識が身についたかどうかを確認しづらい環境であったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業において、ねらいの提示や授業の振り返りを確実に行うことによって、その時間にできるようになったことや身についた知識を実感させられるようにする。また、問題演習や、内容に関する意見を考え表現する活動を取り入れることによって、生徒の理解や表現力の定着・伸長を促進する。 生徒が自らの考え方を表現する時間を確保し、自らの考え方の深化に活かす機会を充実させる。
地歴 公民	<ul style="list-style-type: none"> 設問2、設問3、設問5がほぼ同様の数値で35%以下である。いずれも、「他者の考え方を知り、自分の考え方を深める」というものである。新型コロナウイルスの脅威から1年半以上経過している中で、数値は教科の中で低く示されているが、逆に生徒は意欲を失っていないように捉えられる。コロナ禍でも、生徒が他者の考え方を学ぶ機会を増やす工夫が求められる。 設問7は教科の中で最も高く、全教科の中でも最も高い。様々な授業内の活動が制限されている反面、生徒は既習範囲を関連付けで理解できている。これは、活動に費やす時間を個々の振り返りの時間に充てることができ、授業内容を定着することができていると考えられる。設問1の「振り返りの機会がある」という項目も同じく40%を超えていていることからもその傾向が読み取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスに配慮しながら、ペアワークや紙上討論などの手法を用いて生徒同士が意見を交換する機会を授業で設けるように引き続き工夫する。 生徒が本時の授業を振り返る、既習範囲を振り返る時間を確保し、生徒が着実に知識の定着が図れるように努める。また、その際には、知識の定着に偏重するがないように留意する。生徒が知識を活用し、社会の諸課題に対して多角的な視点や柔軟な思考・創造ができるような授業展開、単元設定を模索・実践していく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 質問5の「他者の考え方を知ること」に関して低い割合が見られている。その原因は、新型コロナウイルスの影響でグループワークや話し合う場面が制限されていると考えられる。 それ以外の項目においては、8割超えの生徒が評価3と4を選択している。授業の中で、考える時間と演習する時間や、振り返り等の時間が確保できていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの現状を踏まえながら、紙面での考え方の共有や他者の考え方を知るためにペアワークを授業に取り入れていく。 これからも演習時間を確保し、考える時間を設ける。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に続いて、設問2、5の「他者の考え方を知ること」、「自らの考え方を広げ深めること」に関しての数値が低い傾向にあることがわかった。これは、今年度も生徒実験やグループワークの制限があり、満足に実施できなかつたことが一因していると考えられる。 設問1、7の「学習のねらいの提示、学習後の振り返り」や「既習事項との関連付け」に関して数値が教科内では高い傾向にあった。これは、授業の中でねらいを明確に定め、関連付けした授業を実施できているためだと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、感染状況を踏まえながら、生徒実験、グループワークの機会を設けることで、生徒が他者の考え方を知り、自らの考え方を広げ深められるように授業を展開していきたい。制限が継続される場合には、実験動画の活用、オンライン授業でのグループ分け機能の使用等により改善を図っていく。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 設問1：座学実技関係なく実践できることで、41.6%に留まっているのは、各担当者が意識してできていないと思われる。 設問2：コロナ禍で活動に制限がある中で、工夫しながらやっている結果として捉えたい。 設問5：設問2と4ポイントのズレがあることが課題であり、他者とのかかわりから新しい知識を学べていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 設問1：この機会に各々がしっかりと意識して提示する。 設問2：コロナ禍が収まるまでは現状維持で良いと考えている。 設問5：課題に工夫を加え、新しい知識を得られる場の設定を実践する。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> すべての質問項目に対して、9割の生徒が、「かなり当てはまる」および「ほぼ当てはまる」と回答しており、授業に対する満足度はおむね高いことが見られる。その一方で、自らの考え方を広げ深まつたかが実感しにくいという生徒がいる。 自由記述欄には、良かった点が多く記載されている中で、要望等も数件あった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実技科目としての特徴を生かし、引き続き、生徒の興味・関心を高める授業構成、教材開発を考えていきたい。 鑑賞・振り返りの時間を増やし、知識や理解を深めることのバランスを工夫していきたい。 適切な場面に効果的な学習方法を取り入れ、今後もより良い授業展開となるよう努めたい。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 設問5について、「かなり当てはまる」の割合が低かった。新型コロナウイルス感染症対策として、ペアワークやグループワークが制限されていることから、他者の考え方を共有する時間が減少しためと考えられる。 設問7について「かなり当てはまる」の割合が高かった。習得した語彙・英文法の知識を活かして取り組む「読む」「聞く」「書く」「話す」タスクを、各科目の特性に合わせて取り入れているためだと考えられる。 解説の時間や、質問をうけつける時間をより多く希望する意見も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス拡大防止の対策を行いながら、自己表現活動などの他者の意見に触れる授業ができないか検討する。 Google Classroomを活用した質問対応や補助解説の方法を模索する。 <p>生徒の質問から、学習内容の理解の程度を科目担当で情報を共有しながら組織的に対応していく。</p>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活実習の実技の授業（教室で手縫いでキルティングカバーの製作）の直後であったためか、設問4の「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた。」の割合が37.0%と一番高い数字となった。 設問5の「他者の考え方を知ることにより・・・」の割合が低かったのは、新型コロナウイルス感染症のため、ペアワークやグループワークを積極的に行えなかつたためと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、生徒の関心の最も高い「食生活」や「保育」「高齢者」「住居」「消費・経済」と様々な分野を学習する予定である。どの分野においても、実験・実習やグループワークを数多く取り入れたい。 青年期の発達課題である自立に向けて必要な知識を理解させ、技術を習得させられるような、きめ細かい指導をする。 授業で実施できない内容については、視聴覚教材を用いたり、家庭での実践活動を生徒に促す。
情報	<ul style="list-style-type: none"> 昨年と同様に設問2、設問5に関して数値が低いことがわかった。この2つの質問に関しては、依然として新型コロナウイルスの影響で学習形態が制限されていたため、このような結果となったと考えられる。 設問4の「できるようになった実感」を感じている生徒が9割以上と昨年以上の数値となった。授業内で情報機器を扱っていることの成果が出ていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークについては、新型コロナウイルス対策の規制を考慮しながら、今後の対策を検討していきたい。 情報機器を操作することにから、できるということを実感しているようなので継続していきたい。

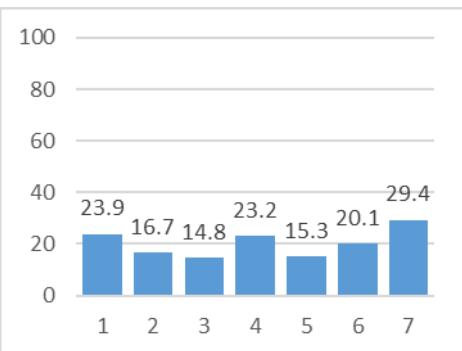
3 科目別・項目別評価「4 かなり当てはまる」の割合 (各学年必修科目のみ記載)
国語総合



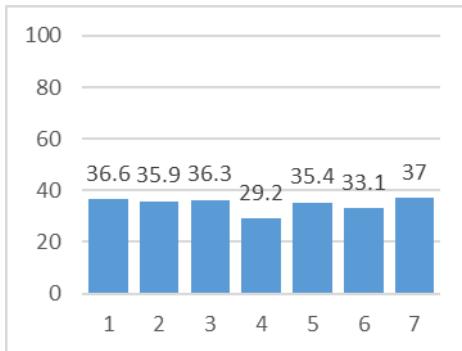
日本史 A



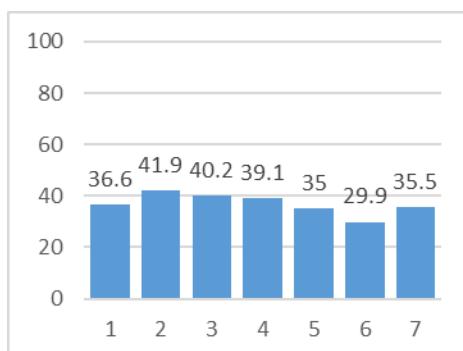
世界史 A



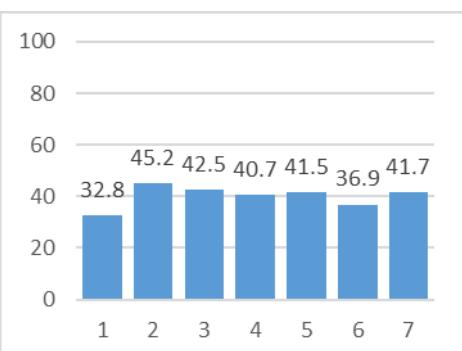
現代社会



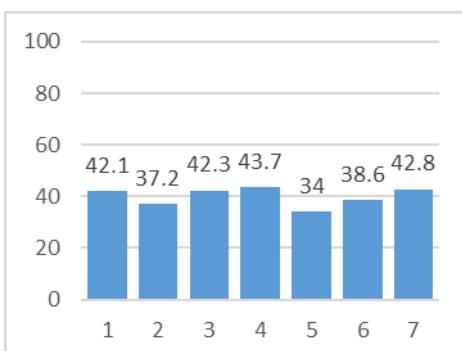
数学 I



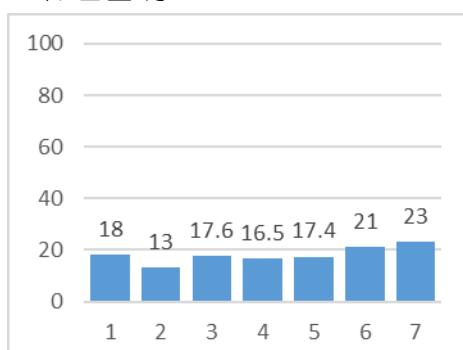
数学 A



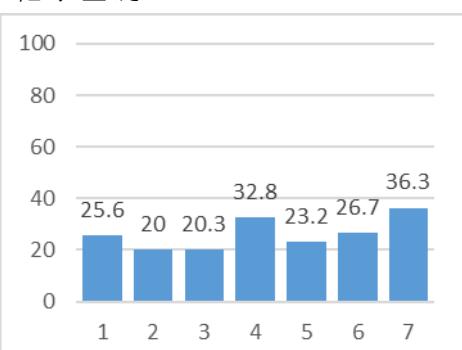
数学 II



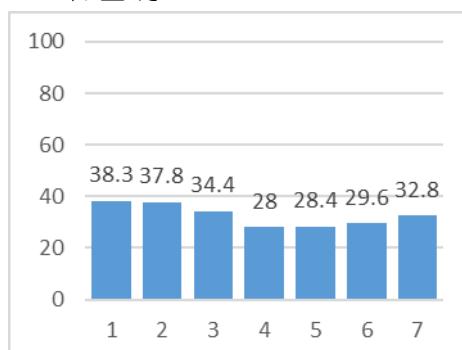
物理基礎



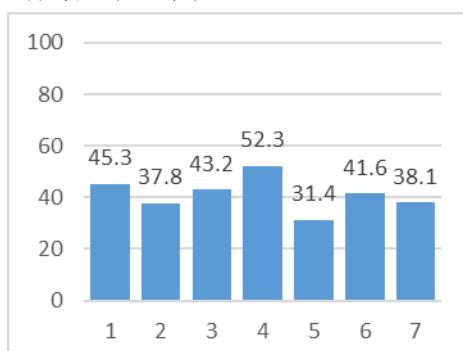
化学基礎



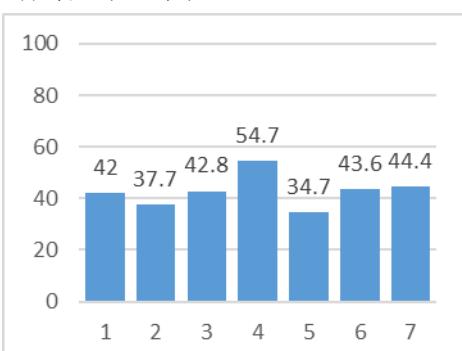
生物基礎



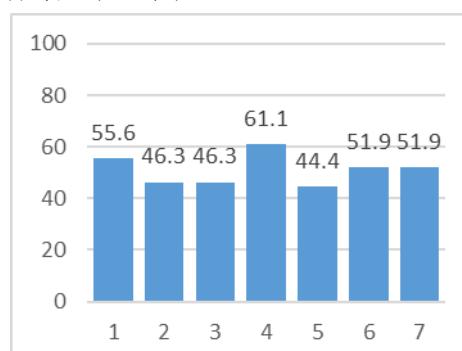
体育 (1年)



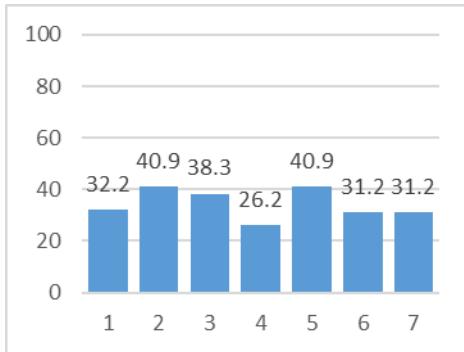
体育 (2年)



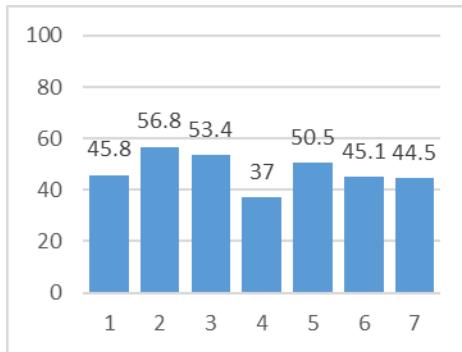
体育 (3年)



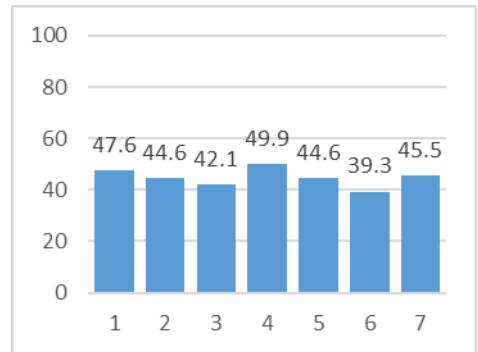
保健（1年）



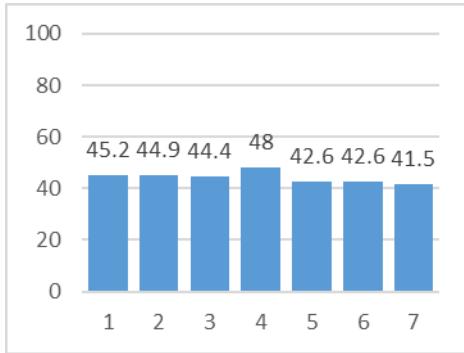
保健（2年）



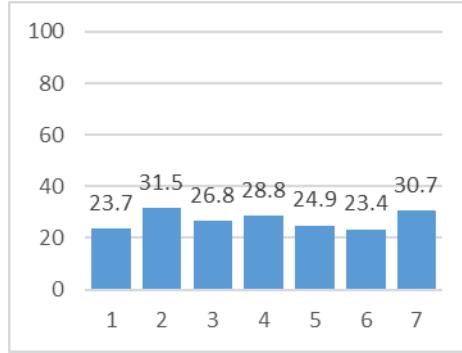
芸術 I



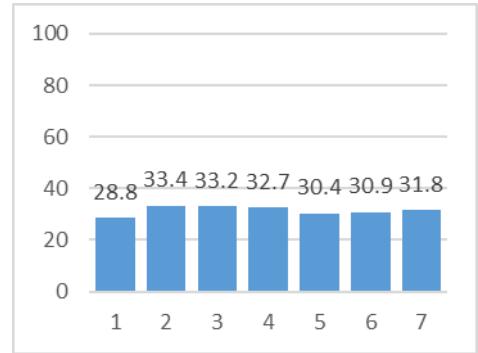
芸術 II



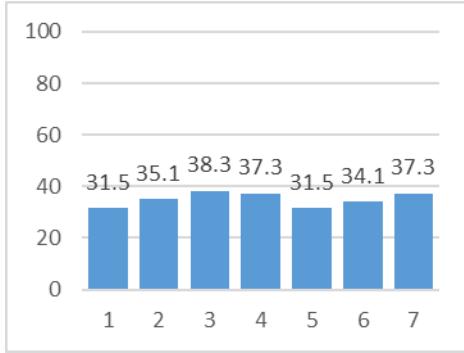
コ ミ ュ 英 I



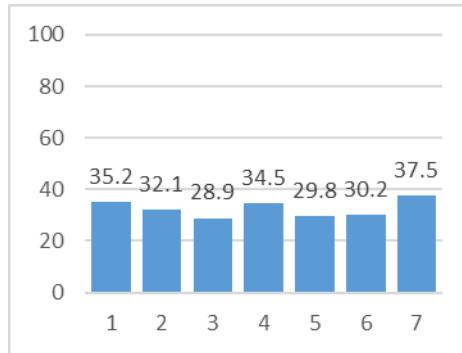
コ ミ ュ 英 II



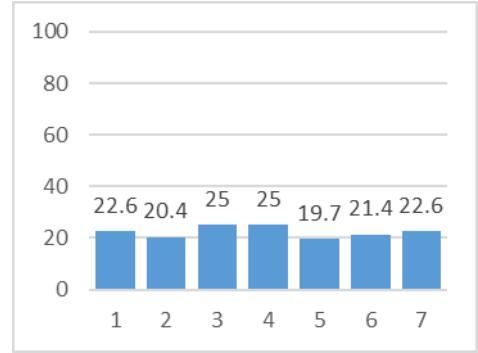
コ ミ ュ 英 III



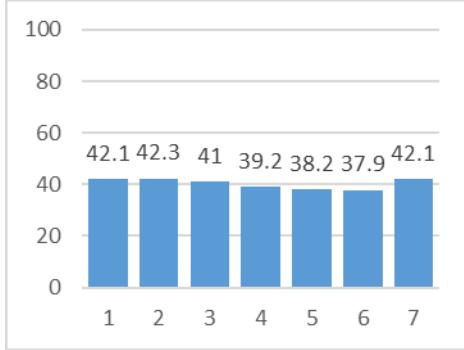
英語表現 I



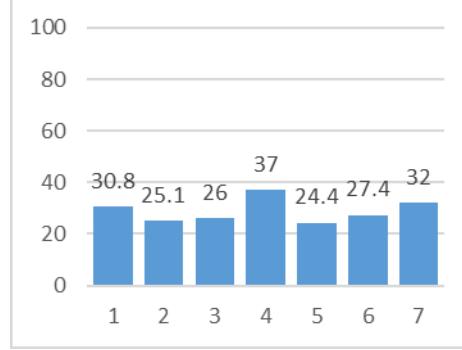
英語表現 II (2年)



英語表現 II (3年)



家庭基礎



社会と情報

